

特別支援教育における連携に関する予備的検討

—小学校低学年の事例についての通常学級担任教師の語り—

竹村洋子

(国立特別支援教育総合研究所)

KEY WORDS: 発達障害 担任教師 インタビュー調査

【問題と目的】

通常学級における発達障害児への教育的対応について、教師と児童の接近的相互作用の成立の重要性が指摘されている。校内や専門機関、保護者と教師との良好な連携は支援効果を高める条件となる(竹村, 2011)。近年では連携を対応として選択し、児童の様子が「改善した」とする事例も報告されているが、学級における対応の困難、連携の課題や難しさは依然としてある(竹村, 2016)。本発表では、通常学級における特別支援教育に関する状況調査として行ったインタビュー調査の結果から小学校低学年の事例を抽出し、学級での対応や担任教師と他者との連携、それらの関連について検討する。

【方法】

対象：東京都公立小学校通常学級担任教師を対象としたインタビュー調査の結果から、1、2年生の事例9ケースを分析対象とした。対象ケースについて語った教師は計5名で、教職経験年数は平均17年(1~26年)であった。

方法：発表者が各学校を訪問し、教師1名に対し30~90分間の半構造化面接を実施した。実施は2016年であった。面接の質問項目は次の通り準備した。うまくいった事例、うまくいかなかった事例の各々について、児童の概況、学級での対応とその効果、連携の内容や方法、それらの連携が学級でのかかわりに及ぼす影響。事例の選択は過去3年を目安とし教師に委ねた。面接の最後に、通常学級における特別支援教育についても思いや考えを語っていただいた。

面接の内容は録音し、録音データを逐語記録として起こした。逐語記録を内容毎に区切り、児童の様子、学級での対応、校内連携、保護者との連携、外部機関との連携に分類して内容を検討した。児童の様子から、教師が減らしたいと考えていた行動を抽出し、竹村(2009)の項目を参考にして分類した。学級での対応、連携の内容についても同様に分類した。事例毎にそれらの内容同士の関連を検討した。

倫理的配慮：研究及び匿名性と拒否権の確保について文書を用いて学校長に説明した。協力への同意の得られた学校に協力者の抽出を依頼し、各協力者にインタビューの開始時に改めて説明して同意を得た。録音についても了解を得た。発表者の当時の所属機関で倫理審査を経た。

【結果と考察】

教師が減らしたいと考えていた行動について分類項目毎

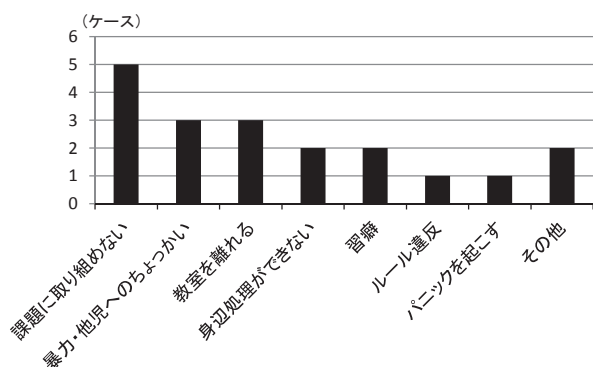


Fig. 1 「減らしたい行動」

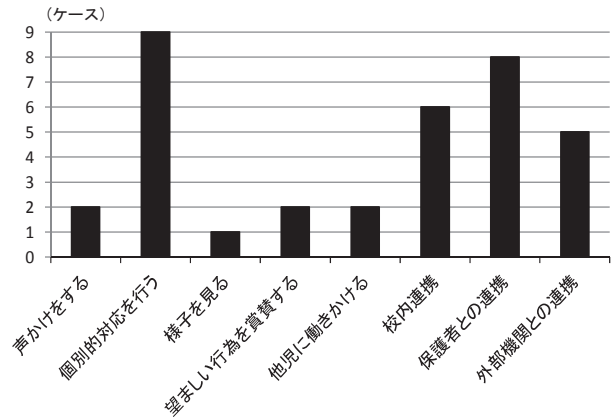


Fig. 2 教師の対応

のケースのべ数を Fig. 1 に示した。複数の行動について語られた事例が8ケースあった。教師の対応について、分類項目毎のケースのべ数を Fig. 2 に示した。個別的対応については全事例で語られ、その内容は様々であった。

語られた内容については、まず、うまくいった事例、うまくいかなかった事例の判断基準が教師によって様々であった。うまくいった事例として語られた3ケースで、環境の違いによって児童の様子が変化する可能性が語られた。また、前年度からの引き継ぎとは違い、大きな困難がなかったと報告された事例が2ケースあった。

保護者との連携について、密に連絡をとっていた状況が語られた事例があったが、よかったこととして語る教師と逆にストレスであったとする教師があった。また、保護者とやりとりする内容の検討や面談に関して、校内連携の様子が語られた事例が6ケースあった。

校内連携について、通級担当、特別支援教育コーディネーター、管理職などの教師、支援員、介助員、スクールカウンセラーといったように、連携の相手は様々であった。児童の行動への対応、保護者との連携にあたっての相談、情報共有や対応に関する相談といった内容が語られた。他にも、取り立てて連携として意識はしていないが、自然と助けてもらっている、との語りや、支援員などのように学級で担任教師と一緒に児童に対応する役割を担ってもらう場合は、スタンスの一致が重要である、との語りもあった。

外部機関との連携について語られた事例では、7ケースで保護者を介して、情報共有や外部機関担当者の見学が実施された。学校単独でやりとりした事例は巡回相談の利用が1ケースのみであった。学校によって外部機関との連携に関して対応方針が異なるとの語りもきかれた。

今後、さらにデータ分析をすすめ、児童の学年や行動の様子、教師の経験年数等による学級での対応や連携の状況の異同等を明らかにし、効果的な連携のための要件を探る。

【文献】

竹村(2009)障害科学研究 33, 215-224.; 竹村(2011)特殊教育学研究 49, 415-424.; 竹村(2016)教心 58 回発表集, 457. ※本発表は JSPS 科研費 JP17K04956 の助成を受けた。

(TAKEMURA Yoko)